

TDU *Agora*

特集

平成30年度 大学院修了式・大学卒業式を挙行 1

CONTENTS

今月の顔 鈴木聡 教授 (未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科)...	3	TOPICS	8
キラリ★電大生 データ科学・機械学習研究室	4	中学校・高等学校	9
働く電大人 松澤光敬さん (平成28年3月 理工学部 電子・機械工学系卒業) ...	5	キャンパスよもやま情報	10
TDU LABO マーケティング研究室(工学部 人間科学系列) ...	6	News	11
学び探求 「大学院博士・修士論文および研究成果発表会」.....	7	Information	15



大学院修了式・大学卒業式を挙行



特集

平成30年度 大学院修了式・大学卒業式を挙行 ～2,335名が新たな門出へ～

3月18日に日本武道館にて、「平成30年度 大学院修了式・大学卒業式」が挙行され、大学院博士課程15名・大学院修士課程391名・学部生1,929名が本学を巣立ちました。

はじめに、管弦楽団とグリークラブによる演奏のもと校歌斉唱があり、全員の声の一つとなって会場内に響き渡りました。次に、安田浩学長より「東京電機大学から巣立つ卒業生の皆様が、本学で学んだ知識と技術を更に磨き、多くの課題に自信と夢を持って挑戦し続けてくださることを確信している」と饒の言葉が贈られました。

続いて、大学院・大学の学位記授与並びに初代学長の故丹羽保次郎先生のご功績を記念し、在学中の優れた研究業績等に対し丹羽保次郎賞の授与、本学において特に優秀と認められた学生に対し学長賞の授与があり、各専攻・学科の総代及び各賞受賞者の代表が、緊張した面持ちで学位記並びに表彰盾を受け取りました。



安田学長



学位記授与



丹羽保次郎賞授与



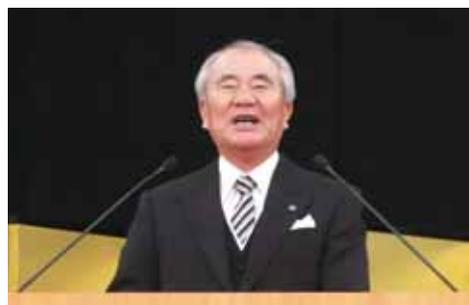
学長賞授与

また、加藤康太郎理事長並びに松尾隆徳校友会理事長より、それぞれ「誠実に職務をこなし、人の言葉を真摯に受け止められる度量を持った技術者に成長していただきたい」、「身に着けた技術を生かすためにも、自らの人格形成に努め、明朗な心と世のため人のために尽くすという信念を持って臨んでほしい」との祝辞が述べられました。

その後、卒業生を代表して理工学部理工学科電子・機械工学系の津田浩平君が「今後は、本学で学んだ知識を活かし、失敗を恐れないチャレンジ精神と自由な発想から革新的な技術を社会に提案していくことで、今まで支えていただいた人たちへ恩返しをしたい」と謝辞を述べました。



加藤理事長



松尾校友会理事長



謝辞を述べる津田君



管弦楽団による演奏

最後に、管弦楽団によるフランツ・フォン・スッペ作曲「『軽騎兵』序曲」の記念演奏が終了すると、壇上の先生方が降壇し、卒業生の間を通過して退席されました。会場のあちらこちらで、握手を交わしながら退席される先生方と卒業生の姿が見られ、その感動的な場面とともに式は幕を閉じました。

式典終了後は、後輩たちから花束を贈られたり、友人やご父母の皆様と記念撮影が行われ、これから社会に巣立ち活躍が期待される卒業生たちの顔は希望に満ち溢れていました。



人を“みる”こと“まもる”こと ～人間モニタリング技術を活用したメカトロニクス～



未来科学部
ロボット・メカトロニクス学科
鈴木 聡 教授



脳機能計測

“みまもり”と人間モニタリング

“みる”に相当する漢字は、“見る”、“観る”、“視る”、“覧る”、“看る”、“診る”などあり、“まもる”という言葉にも“守る”、“衛る”、“護る”、“鎮る”、“葵る”と複数の意味があります。当研究室は“みる”と“まもる”の複合語である“見守り”を柱に、これらの組み合わせに意識しながら様々な人間支援の研究を行っています。

“見守り”は工学的には人間モニタリング技術(Human Monitoring Technology : HMT)に相当し、人間を対象とした計測やその支援に関する事柄に関わっています。具体的には医療・介護、防犯・防災、マーケティング・サービスなどの様々な場面で用いられており、様々な「見守り」があります。HMTの歴史はおそらく1970～80年代頃が黎明期で、そのころは“HMT=【安全】”であったかと思います。いわゆる機械警備に代表される防犯・防災などのセキュリティの自動化が盛んに進められた頃です。

そして1980～2005年にはセンサ・デバイスや情報機器が進化し、人の生活空間の営みを向上させる【利便】もHMTの対象となりました。2005年以降には人工物(ロボットや情報機器)から人間に積極的に働きかける【支援】もHMTの範疇となりました。



保育園での運動計測と画像処理

“見守り”の研究室

人を“みる”手段は多種多様でとても全てを網羅できませんが、本研究室ではバイタル計測(脳波、心電、心拍)・挙動計測(視線、身体動作、機械操作)・脳機能計測とIT/IoTを組合せ、各種情報処理とAI技術を併用して、園や施設、保育士や介護士、子・親・お年寄りといった様々なユーザに役立つようなヘルスケア・ライフケア方法論を研究しています。現場ありきの研究ですので学外計測などの苦勞も多いですが、色々な人たちとの交流も楽しく、本研究室の魅力の一つと思っています。



ドライビングシミュレータによる運転支援実験

鈴木 聡 教授 プロフィール (未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科)

Profile

1995年 3月	東京工業大学大学院 総合理工学研究科 システム科学専攻 修了
4月	株式会社東芝 重電技術研究所
1998年 4月	株式会社東芝 電力産業システム技術開発センター
1999年10月	東京電機大学 フロンティア共同研究センター 助手
2004年 3月	東京工業大学 博士(工学)取得
4月	東京電機大学 21世紀COEプロジェクト推進室 嘱託講師
2007年 4月	同 未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 准教授
2018年10月	同 教授



「第22回 PRMU アルゴリズムコンテスト」表彰式
左から前田教授、安藤さん、鏡川さん、皆川さん、伊藤さん



日頃から機械学習について理解を深める



約100人が集まったPythonと機械学習の勉強会

データ科学・機械学習研究室

「第22回 PRMU アルゴリズムコンテスト」最優秀賞 ～クローン認識器の構築～

情報環境学部 情報環境学科 安藤申将(4年)・伊藤千紘(3年)・鏡川悠介(3年)・皆川哲範(3年)

私たちが所属するデータ科学・機械学習研究室は、2017年に新設され人工知能に関連する多様なテーマを研究しています。今回、電子情報通信学会のPRMU(パターン認識・メディア理解)研究専門委員会主催の第22回アルゴリズムコンテストに研究室のメンバー4名で参加しました。課題は「認識モデルをクローンしてみよう」で、締切まで約2ヶ月間集中して取り組みました。

このコンテストへの参加を目標に、プログラミング言語のPythonと機械学習の勉強会をシステムデザイン工学部 情報システム工学科の前田英作教授と川勝真喜准教授に開いていただきました。この勉強会には私たちの研究室のメンバー他、情報システム工学科の1、2年生を中心に約100名が集まり、3ヶ月間に渡りご指導をいただきました。勉強会の前半はニューラルネットワークをPythonで実装してみる講義形式で、後半はコンテストに提出するアルゴリズムの検討を各チームに分かれて行いました。

近年、画像認識はスマートフォンやクラウド環境で提供されることが多くなり、身近なサービスとなってきました。コンテストの課題にある「認識モデル」とは、実サービスとして提供されている画像認識〇〇のように、機械学習の学習済みモデルのことを言います。例えば、ある犬が描かれた画像をサービスに入力すると、その画像に描かれたモノを「シベリアンハスキー」、「バグ」、「ダックスフンド」などに出力してくれます。今回

の課題内容は、少ないサービスの利用回数で、なるべく正確に、認識モデルの複製を作るアルゴリズムを考案することでした。

コンテストは3つのレベルが設定されており、上位レベルは実サービスに近い課題設定となっていました。私たちのグループは、全てのレベルで成立する汎用性の高いアルゴリズムを考案し、レベル1、2、3でそれぞれ1位、2位、4位の精度を得て、結果として最優秀賞を獲得することができました。表彰式は、東北大学で開催されたPRMU研究会で行われました。

今回考案したアルゴリズムでは、複数の学習モデルに同じ画像を識別させた時に、判断が困難な画像ほど学習モデル間の識別結果に差異が生じやすい性質を利用しました。この差異が大きい画像を優先してサービスへの入力として用いることで、少ない入力回数でより正確な複製モデルを作ることができます。苦労した点はアルゴリズムの性能向上のための試行錯誤です。良いと思われた方法でむしろ精度が低下したり、一見駄目そうな方法が有効であったりと、試行を繰り返す中で最適な実装を確かめていきました。

コンテストに参加したことで、プログラミング言語、機械学習、テクニカルライティングなどに対する理解が深まったと感じています。また、他の参加学生や先生との間で多くの議論を行い大変有意義な時間を過ごすことができました。
(安藤 申将)

学生時代に魅せられた競技用オートバイの設計者に ～理工学部フォーミュラSAEプロジェクトでの経験を活かして～



HONDA
The Power of Dreams

株式会社本田技術研究所
二輪R&Dセンター

松澤 光敬さん

平成28年3月 理工学部 電子・機械工学系卒業
自動車工学研究室(小平和仙講師)



フォーミュラSAEプロジェクトでは、エンジン設計、電装設計、冷却設計製作を担当

私は学生時代にオートバイレースに魅せられ、オートバイの設計者を目指して株式会社本田技術研究所に入社しました。そして今、競技用オフロード二輪車の開発を行っています。

私の仕事は、世界中のお客様に対してレースで勝てるオートバイを提供することです。そのためには、他に無い新しい事への挑戦が必要不可欠です。同時に、開発の世界では正解が1つとは限らず、出た答えがベストかどうか時には自分で判断する必要があります。それがこの仕事で一番面白く、やりがいを感じる部分です。

私は在学中、理工学部の活動であるフォーミュラSAEプロジェクトに4年間在籍し、4度の世界大会出場を経験しました。卒業して現在の業務に取り組む中、在学中に2つの重要なものを得ていたと気づきました。

1つ目は、「チームで仕事をする」という経験です。複雑なものほど、一人で作り上げるのは困難であり、限られた日程の中で開発をするには、メンバー同士の連携が重要です。企画からマシン製作・大会出場まで一貫して行うこのプロジェクトは、チームでしか成し遂げることができません。

2つ目は、「世界一を目指す」という志です。日本一でも世界一かどうかは分かりません。世界一なら、間違いなく日本でも一番です。頂点へのこだわりが、メンバーを成長させてくれました。優勝を狙うことは勿論ですが、世界という土俵で身につけた広い視野は、世界中のお客様のために開発を行う上で、無くてはならないものになっています。

最後になりますが、このような私の経験は一例に過ぎません。大切なのは、「学生時代、これをやりました」

と卒業してから誇れる何かに没頭することです。時には嫌になることもあります。その時は一歩引いて、また進めば道は続いていくはずです。

卒業生の中には将来、設計者として私のライバルになる方もいるかもしれません。皆さんに負けないようこれからも頂点を目指し、私も日々挑戦を続けます。

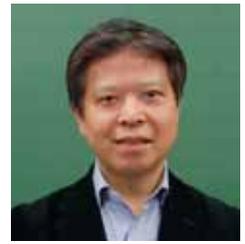


在学中に参加したFormula SAE Australasia (2014年)

マーケティング研究室

～社会貢献をマーケティングに活かすコース・リレーテッド・マーケティングの研究～

工学部 人間科学系列
世良 耕一 教授



企業の社会貢献活動を指す「フィランソロピー」には「見返りを求めない貢献」といった意味があります。しかし、企業が名前を出して社会貢献を行えば、何らかの見返りがあるのにもかかわらず、それを認めないことに違和感を持っていました。そんな時、企業の社会貢献をマーケティングに結び付ける「コース・リレーテッド・マーケティング」と出会い、すつと腑に落ちて、以来20年以上研究を続けています。「コース」という言葉がひっかかるとは思いますが、これは「公益性のある支援対象」を意味します。

今から6年ほど前に突然、ある出版社の方から手書きの丁寧なお手紙をいただき、それまでの研究成果を出版することを勧められました。おかげでこの研究を本にまとめることができました。幸いその本を評価していただき、日本NPO学会の優秀賞をいただきました。本を出したおかげでいろいろな出会いがあり、読者の広告代理店社長の仲介で、ベーカリーをチェーン展開している企業にご協力をいただき、実際に寄付付き商品

を販売した際の売上と原価のデータをもとにした研究を行っています。

クッキーを「こども食堂等の支援活動を行っているNGO」への寄付付き商品としたことにより、寄付分だけ値上げしたにもかかわらず、売上が増加するという



出版した著書「コース・リレーテッド・マーケティング」

効果が確認できました。寄付は顧客が負担しているので、利益も増加したことになります。この結果に、来店者や従業員へのアンケート調査結果を加味して多角的に分析したものを4月に出る日経広告研究所報で発表します。同研究所報の編集長も研究メンバーに加わり、実店舗での調査という貴重な機会を活かした研究を継続していく予定です。

研究室では毎年、夏合宿で「企業の社会貢献活動」はどのようなものを体験してもらっています。このような「学生が企業の社会貢献活動へ参加」という新しいインターンシップを「コース支援協働型インターンシップ」と名付けて提唱しています。



学生指導にも熱が入る



社会貢献活動として海岸清掃をする学生
(北海道北斗市の上磯海岸にて)

「電大ガールズ」 D-girls

電大ガールズは新体制への引継ぎを終え、新年度の活動に向けて準備を始めています。現在、4月3日から5日に行われるオリエンテーションをはじめ、新入生歓迎会や運動会など様々なイベントを企画しています。どのイベントも新入生の皆さんに楽しんでいただけるよう、趣向を凝らして検討を重ねています。新たな試みや、より一層活動の場を増やせるよう邁進していきます。

新入生の女子学生の皆さん、電大ガールズに少しでも興味をもっていただけたら、ぜひ一度、イベントにご参加ください。お待ちしております。



昨年の新入生歓迎会の様子

工学部 応用化学科2年 佐藤 春菜

大学院博士・修士論文および研究成果発表会 ～在学中の研究成果をポスターセッション形式で発表～

東京千住キャンパス事務部

2月8日に東京千住キャンパスにて、平成30年度 博士・修士論文および研究成果発表会を開催しました。先端科学技術研究科(博士課程)、未来科学研究科(修士課程)、工学研究科(修士課程)の学生が、日頃の研究成果を発表する一大イベントです。外部の方が多く参加されるため、相互交流できる大変貴重な機会となっています。

研究成果発表会開催に先立ち、東京工業大学工学院システム制御系教授の中島求氏から「力学シミュレーションがスポーツ科学を変える」というテーマで、ご講演いただきました。スポーツ工学だけでなく大学生活と社会人の違いについて等、研究以外にも勉強になるお話は意義深い内容で解りやすく、来場者は熱心に耳を傾けていました。

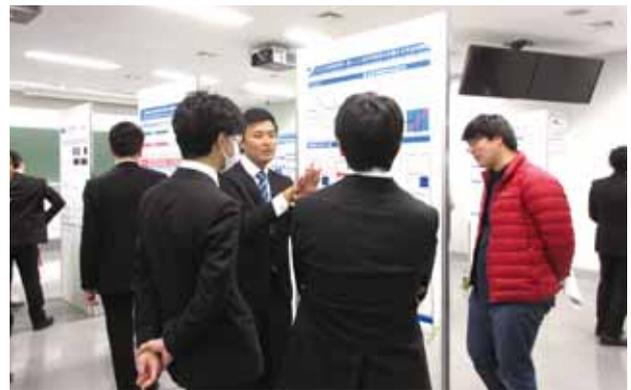
発表会は本学大学院生約300名が、一斉に各々の研究成果をパネルで展示・発表するポスターセッション形式で行われました。発表者は、大学院生活の集大成である発表会にやや緊張した面持ちでしたが、入念に作りこまれたポスターの前で堂々とした発表を行い、学部生や先生方の関心を集めている様子でした。また、修了生や企業の方にも多くご参加いただき、大いに賑わいました。外部の方から今後の展望についての質問を受け、意見交換をしている場面では、「新たな角度から研究を考えることができるようになった」という前向きな言葉が聞こえてきました。



中島求氏による講演

発表会後の懇親会では、フランクな雰囲気の中で教員と学生が会話を楽しみました。今までの感謝や、修士論文を書く時の苦労や今後の研究の展開について話をしたりと、笑顔溢れる懇親会となりました。食事をしながらだからこそ、研究に関する新たな視点や課題の発見にも繋がったのではないのでしょうか。

今年度も多くの方にご来場いただき、大盛況の内に発表会を終えました。来年度も素晴らしい学びの成果発表を期待しています。



研究成果を発表する学生

文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」

サイバーセキュリティシンポジウム in TDU 2019

～研究成果と今後の取り組みについて～

3月11日に東京千住キャンパスにて、「サイバーセキュリティシンポジウム in TDU 2019」を開催し120名の方にご参加いただきました。

はじめに、セコム株式会社の松本泰氏より、「医療分野などで要求されるIoTデバイスのトラスト」という題目で企業目線からの講演がありました。続いて、本学の教員3名より、私立大学研究ブランディング事業の研究成果と今後の取り組みについて発表がありました。

シンポジウム終了後は、本事業の外部評価委員会を開催しました。外部評価委員の方々から本事業の進捗について評価をしていただくとともに、来年度に向けての貴重なご意見もいただきました。



佐々木良一特命教授による成果発表



学生で賑わう企業のブース

第5回 卒業生による 仕事研究セミナー ～257の企業が参加～

学生支援センター

2月9日にホテルグランドパレス(東京都千代田区)にて、第5回卒業生による仕事研究セミナーを開催しました。本セミナーは、多くの電大OB・OGから情報を得ることができる本学最大規模の就職支援行事です。

当日は悪天候にも関わらず、1,398名の学生と、企業から257ブース525名の方にご参加いただき、多くのOB・OGに仕事や働くことに関するアドバイスをいただきました。また、今回は昨年の福島県に加え、長野県と山梨県のUターン・Iターン担当者にもご参加いただき、地方で活躍する優良企業に学生を紹介しました。

企業の方からは、「積極的に質問していた」、「熱心に聴く姿が印象的だった」といった評価を多数いただきました。参加学生からは、「予め行きたい企業を決めて臨み、調べた企業+a回れた」、「用意していた質問をきっかけに、先輩から沢山の情報を得られた」といった声があり、事前準備していた学生ほど有意義にこのセミナーを活用できたことが判りました。

来年度につきましてもOB・OG訪問がまとめてできる貴重な機会の実施を予定しております。



説明を熱心に聴く学生たち



約40名の教職員が参加

平成30年度 PBL 成果発表会 ～アクティブ・ラーニングの普及・促進～ 教育改善推進室

3月7日に東京千住キャンパスにて、平成30年度PBL成果発表会を開催しました。これは当該年度に採択された各取組み(科目)についての成果および実施内容について報告を行い、担当した教員間での情報共有を目的として実施しており、今回で8回目を数えます。

PBL (Problem-Based Learning 又は Project-Based Learning) とは、答えのない課題を学生に与え、少人数グループによる授業時間内学習および授業時間外の学習を通じて、課題発見能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、発表能力等を養うことを目的としたアクティブ・ラーニングを活用した教育手法の一つです。教育改善推進室では、PBLの手法を採り入れた授業に対して、毎年度経費補助を行い、アクティブ・ラーニングの普及・促進に力を入れています。

成果発表会では、今年度採択された科目担当教員および授業に実際に参加した学生から成果の発表が行われ、来場者との間にて活発な意見交換が行われました。このような成果発表会を開催することでPBLについての理解を深め、アクティブ・ラーニングの手法を用いた授業の普及を期待しています。

なお、現在までに対象となった科目の一覧と成果報告書については、以下のURLにて閲覧ができますので、是非ご覧ください。

https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/activities/oed/effort_department/



未来科学部 情報メディア学科 山田剛一講師の成果発表

高等学校合唱祭

～生徒たちの成長を感じた日～



金賞 1年7組の合唱「決意」



合唱祭パンフレット表紙(生徒画)

高等学校では、各学期において大きな行事を実施しています。6月の体育祭、9月の武蔵野祭に続き、2月20日には本校アリーナにて、今年度最後の行事である合唱祭を開催しました。

合唱祭では、高校1・2年生がクラスごとに曲目を選定し、生徒・保護者の前で合唱を披露します。そして、優秀な合唱(クラス)には、金賞・銀賞・銅賞を授与します。

毎年冬は、入学試験による休講やインフルエンザのため学級閉鎖などがあり、どのクラスも合唱の練習に十分な時間を取れず、苦勞をしています。そうした中でも、合唱祭が近づくにつれて、早朝や放課後にどの教室からも合唱の歌声が響き渡ります。毎年冬になると、最初の頃はバラバラだった歌声が、次第に一つのハーモニーとしてまとまっていく様子を聴きながら、生徒たちの成長を実感しています。

合唱祭の当日は、平日の午前中にもかかわらず、約300名の保護者の皆さまに來場していただきました。どのクラスの合唱からも生徒たちの一生懸命な様子が伝わり、甲乙付け難い合唱ではありましたが、大久保校長が審査委員長となり、厳正なる審査のもと、今年度の合唱祭は、以下の結果となりました。

今回の合唱祭を通して大きな成長を見せてくれた生徒たちが、4月から新たな学年に進級してどのような活躍を見せてくれるのか、今後がとても楽しみです。

(高等学校教頭 平川吉治)

◎金賞

1年7組

曲目「決意」(作詞:片岡輝 作曲:鈴木憲夫)

◎銀賞

2年1・2組

曲目「虹」(作詞作曲:森山直太郎・御徒町凧)

◎銅賞

2年3・4組

曲目「HEIWAの鐘」(作詞作曲:仲里幸広)



表彰式の様子

東京千住キャンパス

東京千住キャンパス写真部 写真展



3月11日から16日まで電大ギャラリーにて、東京千住キャンパス写真展を開催しました。

3月に卒業した部員7名が、4年間で撮影した写真を各自がテーマに沿って展示しました。季節感のある風景、鉄道、人物など約70点の色とりどりの写真とともに、写真を撮りはじめた経緯や写真に対する想いもご紹介させていただきました。7名それぞれの特色が色濃く出た展示になったのではないかと思います。

ご来場いただきました皆様ありがとうございました。
(写真部 未来科学部建築学科4年 三田村)

埼玉鳩山キャンパス

卒業生による仕事研究セミナー



2月15日にベルセゾン(埼玉県志木市)にて、埼玉鳩山キャンパス主催の卒業生による仕事研究セミナーを開催しました。

BtoCやBtoBの優良企業74社が一堂に会し、本学卒業生から直接お話しを聞くことができる貴重な機会に、267名の学生は企業の情報や卒業生の働き方などの役立つ情報を受け、メモを取りながら真剣に聞き入っている姿が印象的でした。

ご参加いただきました企業の皆様ありがとうございました。
(理工学部事務部 佐藤)

東京小金井キャンパス 中学校 強歩大会

2月20日に強歩大会が行われました。当日は福生柳山公園から、1年生は関戸橋まで約17キロ、2年生は是政橋まで約20キロ、3年生は京王相模原線鉄橋まで約25キロ歩きました。暖かい陽射しが心地よく、歩いていると汗ばむほどの穏やかな晴天に恵まれました。

昨年はゴールに着くなりぐったりしている生徒が多かったのですが、強歩大会も2年目となる2年生が、スタスタと歩みを進めていく姿は頼もしい限りでした。子どもたちの成長を大きく感じることができました。

(引率教諭 島崎)



新しい時代を拓いた科学・技術 vol.19

マリー・キュリー フランス ● 1867年～1934年

放射線の研究でノーベル賞を2度受賞

「人はみな、何らかの天分に恵まれているもの」

原子時代の扉を開く

マリー・キュリーは、ポーランドに生まれフランスで活躍した物理学者、科学者です。マリーは物理、化学、数学の勉学に励み、やがてフランス人科学者ピエール・キュリーと結婚。2人は放射線の発見者ベクレルの影響を受け、ウラン鉱石の精製からラジウムとポロニウムを発見し、原子核の自然崩壊、放射性同位元素の存在を実証。1903年、マリーは夫とベクレルとともに、女性では初のノーベル賞を受賞(物理学賞)。1911年には化学賞で初の2度目のノーベル賞受賞。当時、放射性物質は、幸せをもたらす魔法の物質、夢の薬品などとして販売されました。マリーによって放射線研究は進歩を遂げ、今日では医療や産業などに活用されています。しかしその一方で、原子爆弾や原子力発電所の事故といったリスクが問われています。



「ポロニウム」はマリーの祖国ポーランドが語源、「放射能」の命名も彼女。ノーベル賞を2度受賞したマリーですが、爆薬によって創設された賞を評価することはありませんでした。亡くなった夫の後任として、女性では初のバリ大学教授に就任。再生不良性貧血により66歳で死去。彼女が残した研究ノートは、いまでも放射線を出し続けているといわれています。

ものづくりセンターの加工品を展示会に出品 ものづくりセンター

ものづくりセンターの5軸マシニングセンターで加工したサンプル(スクリーインペラー他)が最先端の加工事例として、2月6日から8日に東京ビックサイト(東京都江東区)にて開催された日本ものづくりワールド2019「第30回設計・製造ソリューション展、第23回機械要素技術展」に出品されました。(出展ブース:株式会社ゼネテック(加工データ作成協力)、日進工具株式会社(工具提供))イベント期間中、たくさんの来場者の方に加工サンプルをご観覧いただきました。

なお、出品した加工品は、ものづくりセンター入口脇の「ショーケース」でご覧いただけます。是非、ご覧ください。



展示された加工品

ENSMMから学生が来日

国際センター

2月から協定校、フランス国立高等精密機械工学大学院大学(ENSMM)の学生を研究生として受入れています。彼らは、約半年間、本学で研究に従事する「ファイナルプロジェクト」というプログラムに参加しています。

このプログラムでは、本学研究室で20週間以上の期間をかけて研究を行います。機械系または電気系の研究室を選択し、受入れ教員の指導の下、学びます。学生の日本語能力にもよりますが、基本は英語でプログラムが進められます。例年はENSMMの3年生のみ対象となりますが、今年からは2年生の受入れも開始しました。研究室の学生にとって海外からの留学生と英語で交流する良い機会となることを期待しています。



ENSMMより来日した研究生

課題探究学習 TDU 4D-Lab

中学校・高等学校

中高では、総合的な学習の時間の中で、学年横断型課題探究学習「TDU 4D-Lab」を実施しています。今年も、乳製品の発酵の過程を調べるためにヨーグルトを作ったり、ディベート甲子園に出場して他校生との討論を経験したりと、生徒たちは年間を通じてさまざまな活動を行いました。2月23日には今年度最後のTDU 4D-Labを行い、年間の活動を振り返り、来年度に向けて新たに取り組むべき課題を設定しました。

なお、当日は高大連携の一環として、大学から工学部 五十嵐洋教授、安藤毅助教、理工学部 長原礼宗教授、矢口俊之准教授の4名の先生方にお越しいただき、中学1年生を対象にした電大出張講座も実施しました。



生徒によるTDU 4D-Lab(このは-Lab)の活動紹介

丹羽保次郎記念論文賞

研究推進社会連携センター(研究推進部)

丹羽保次郎記念論文賞は本法人の学術振興基金事業の一つであり、初代学長である故丹羽保次郎博士の功績を記念して、電子通信工学関連の分野に属する大学院生を中心とした若手研究者の優れた論文に授与するものです。

今年度は7編の応募の中から、東京農工大学大学院の石原拓実様、北陸先端科学技術大学院大学の齋申様が受賞しました。

2月23日に東京千住キャンパスにて、平成30年度学校法人東京電機大学学術振興基金等各賞授賞式が開催され、賞状、記念品および副賞の授与とプレゼンテーションが行われました。その後の祝賀会では、安田浩学長をはじめとする本学関係者との交流を深め、盛況のうちに終了しました。



石原様によるプレゼンテーション

受賞
情報

顕著な活躍をした電大人を紹介します。



齋藤 真幸さん(4年)

工学部 情報通信工学科(暗号方式・暗号プロトコル研究室)

WordPress用プラグインSmart Formsにおけるクロスサイトリクエストフォージェリの脆弱性を発見

脆弱性番号: CVE-2019-5924, JVN#97656108

平成31年2月28日

WordPress用プラグインFormCraftにおけるクロスサイトリクエストフォージェリの脆弱性を発見

脆弱性番号: CVE-2019-5920, JVN#83501605

平成31年2月26日



日俣 幸彦さん(修士1年)

工学研究科 電気電子工学専攻 電気電子システムコース(ハイパワー工学研究室)

第36回 電気設備学会全国大会

発表奨励賞

平成30年12月7日



原 寛貴さん(修士1年)

駒澤 直登さん(修士1年)

木之内 諒さん(修士1年)

松田 健吾さん(修士1年)

未来科学研究科 建築学専攻(建築設計研究室)

ヒューリック学生アイデアコンペ

佳作

平成30年10月14日

(受賞日順)

※所属・学年は受賞時

校友会だより



三菱電機総会

2月23日に東京千住キャンパスにて、三菱電機総会を開催しました。今回は安田浩学長のほか、システムデザイン工学部の和田雄次教授、理工学部の神戸英利教授といった三菱電機OBの教員をお招きして、計41名の参加となりました。

総会に先立つ講演会では、卒業生の千葉隆文氏から、開発に関わった「このとりプロジェクト」についてお話をいただきました。

総会では、現在の三菱電機会員は388名であり、近年10年間における新卒採用数は152名との紹介がありました。また、今年度内定者12名の内7名が総会へ出席し、三菱電機OB・OGからこれから活躍するための多くのアドバイスがありました。



今年度内定者も参加

出版局 新刊のご案内



2月刊は全て定番書籍の改訂版！電験三種、臨床工学、化学の書籍をご紹介します。

<電験三種シリーズ> 東京電機大学電験研究会編



既出問題を分析し重点項目を厳選。実践指導の実績と合格のためのノウハウを有するベテランが解説。

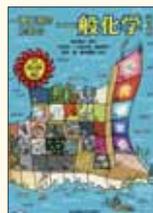
- 合格マスター 電験三種 理論 A5判 306頁 3,024円
- 合格マスター 電験三種 電力 A5判 274頁 2,808円
- 合格マスター 電験三種 機械 A5判 320頁 3,132円
- 合格マスター 電験三種 法規 A5判 256頁 2,592円



体機能代行装置学 血液浄化
第2版

海本 浩一 編著／岩谷 博次・宮田 賢宏
平井 康裕・鎌田 亜紀 著
B5判 204頁 3,024円

人工透析・血液浄化についてまとめた教科書。透析患者のQOL向上を目的とした新しい機器やデバイス、薬剤など、近年の著しい発展に対応すべく改訂。



理工系のための一般化学
第2版

鈴木 隆之 編著／石丸 臣一・小林 大祐
保倉 明子・宮坂 誠・藪内 直明 著
B5判 226頁 2,808円

化学の基礎知識全般を取り扱う大学初年次向け教科書。高校と大学の橋渡しを目的とした復習問題を新たに掲載するとともに、各章における更なる充実を図った。

学生だより

第24回リーダーズキャンプ

～学生団体代表者対象の研修会～

理工学部 自治会執行委員会 書記長
理工学部 情報システムデザイン学系 2年
岡部 真奈



第24回東京電機大学リーダーズキャンプが、12月26日と2月19日の2日間に分けて東京千住キャンパスで開催されました。両日も東京千住キャンパスと埼玉鳩山キャンパスの各学生団体代表者約110名が参加し、次期学生団体リーダーの素養を高めることを目的とした研修を受けました。

講師として株式会社edu-activators代表取締役の門田卓史氏をお招きし、様々なグループディスカッションや講義をしていただきました。グループディスカッションの中では、各団体の存在意義や特色、問題点やその改善方法について話し合い、発表することで、運営団体、文化系団体、体育会系団体それぞれの意見を聞くことができ、

大変参考になりました。

多くの学生団体をまとめる自治会執行委員会の一員として、今回学んだことを今後の活動に活かしていきたいと思います。



和やかな雰囲気で行われたグループディスカッション

時代を越えて—東京電機大学の軌跡

大学躍進期(3) | Vol.19 |

〈昭和52年～昭和59年〉

創立75周年記念事業の重点事業である神田地区充実整備計画の実地により、神田地区に地下2階地上17階建の11号館を建設した。ここに大学院工学研究科、総合研究所、電子計算機センター、大学図書館、7つの学科センターなどを中心に各研究室、実験室を合理的に配置し、神田地区の研究・教育の中心としての機能を開始した。

これらの諸施策により本法人は、3学部(15学科)、2研究科(6専攻)、1研究所を有する東京電機大学のほか、短期大学、高等学校、電機学校ならびに出版局を有する理工系屈指の総合学園に発展した。

これは科学技術の進歩、ならびに人類の発



創立75周年記念事業により建設された11号館

展と幸福を願い『後世、科学技術の総本山たらん』とする創立者の建学理念の具現化へ向かう躍進の第一歩である。

出典「学校法人東京電機大学75年史 小史」
(一部読みやすく修正しています)

今月の俳句

教職員親睦会「千住俳句会」

木枯らしや信玄隠し湯に浸る
るずまいの正しくて冬薔薇かな
鮫鯨のこの世の闇を飲むがごと

鷗村(藤田聡)

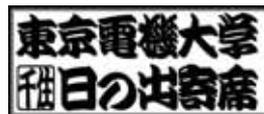
七美男(松田七美男)

知多(絹川博之)

Information

東京電機大学 千住日の出寄席

東京電機大学同窓会



2016年に大盛況となりました、東京電機大学と千住日の出寄席のコラボレーションが千住の街に帰って参りました。

今回は、二部構成の演出。基調講演と落語会です。落語会のトリには地元で活躍の若手真打「林家たけ平」師匠をお招きします。東京千住キャンパスの大ホールにて、3時間の『落語の世界』をご堪能ください。

- 日 時 4月20日(土) 受付開始10時30分
- 場 所 東京千住キャンパス 1号館2階 丹羽ホール
北千住駅東口(電大口)徒歩1分
- 内 容
- (第一部) 11:00~12:00
基調講演
テーマ:落語の世界
~これがわかると落語は十倍楽しい~
講師:若木家元翁
- (第二部) 13:00~15:00
東京電機大学・千住日の出寄席(落語会)
出演:染家さくら・料亭彦柳・河内家るばん・ペロ中島
林家たけ平
- 定 員 300名
※誠に恐れ入りますが、未就学児の入場はご遠慮ください。
- 参 加 費 無料・申込不要
- お問合せ 東京電機大学校友会 TEL:03-5284-5140



林家たけ平

メールマガジン TDU News Letter 登録受付中

総務部(企画広報担当)

メールマガジン「TDU News Letter」の配信を行っています。

毎月1回を目安に、教員・学生・卒業生・イベントなどの情報をお届けします。

登録をご希望の際は、下記より必要事項を入力してお申し込みください。

<https://form.dendai.ac.jp/pc/enquete/merumaga/>



編集後記

3月18日に大学院修了式、大学卒業式が執り行われました。春の暖かい日差しの中、学生たちの晴れやかな表情は眩しく輝いていました。これから旅立つ卒業生が社会で活躍されることを願っています。

TDU

学校法人東京電機大学 (総務部企画広報担当)

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

TEL. 03-5284-5125 FAX. 03-5284-5180

E-mail: soumu-kikaku@jm.dendai.ac.jp

<https://www.dendai.ac.jp/>



この印刷は環境保護の為、印刷に伴う廃液を排出しないシステムで印刷されています。